

教職支援室便り

10月号
平成26年10月10日(金)
文責：教職支援室 山本寛幸
☎0985-20-4808

教員採用第一次選考試験結果 10月6日現在

教職支援室便り9月号で第一次選考試験結果をお知らせしましたが、その後、既卒者で2名、第一次選考試験に合格していることが判明しましたので、改めて、10月6日現在の結果をお知らせします。

● 19名(延べ24名) = 現役7名(延べ12名) + 既卒12名(延べ12名)

※現役受験者：11名 ※既卒者については把握分のみ

【中学校英語14名】

宮崎県2名(既卒)、鹿児島県2名(現役1、既卒1)、大分県1名(既卒)、福岡県1名(現役)、福岡市1名(現役)、山口県2名(既卒)、鳥取県1名(既卒)、大阪府1名(現役)、静岡県1名(現役)、岐阜県1名(現役)、愛知県1名(現役)、神奈川県2名(現役)

【高校英語5名】

大分県1名(既卒)、滋賀県1名(既卒)、静岡県1名(既卒)、神奈川県2名(現役1、既卒1)

【中高英語2名】

千葉県2名(現役)

【小学校英語1名】

宮崎県1名(既卒)

次期学習指導要領改訂の動向 その1 「英語教育改革」

1 学習指導要領とは

現行学習指導要領は、平成23年4月に小学校、平成24年4月に中学校で全面実施となり、平成25年4月から高等学校でも学年進行で実施され、学校現場でも定着し始めています。学習指導要領は、10年を目途に改訂されていますが、すでに次期学習指導要領改訂への胎動が始まっています。

学習指導要領とは？

全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を定めています。これを学習指導要領といいます。

学習指導要領では、小学校、中学校、高等学校等ごとに、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定めています。また、これとは別に、学校教育法施行規則で、例えば小・中学校の教科等の年間の標準授業時数等が定められています。各学校では、この学習指導要領や年間の標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、教育課程(カリキュラム)を編成しています。

2 動き出した次期学習指導要領改訂

現行学習指導要領が全面実施になって数年しか経っていませんが、既に、次期学習指導要領改訂に向けて、文部科学省は動いています。その改訂のポイントの1つに「英語教育改革」があります。

(1) 英語教育改革

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めることや、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育を本格展開することを目指しています。英語教育改革は、中央教育審議会の検討を経て、平成30年度から段階的に先行実施し、平成32年度からの全面実施を目指しています。

① 英語教育が変わる！「グローバル化に対応した新たな英語教育改革実施計画」

(平成25年12月 文部科学省)

文部科学省は、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境作りを進めるため、小中高等学校を通じた英語教育改革を計画的に進めるための「英語教育改革実施計画」を平成25年12月に公表しました。この計画が実施されると、小・中・高等学校の英語教育は、次のようになります。

《小学校の英語教育はこう変わる》

【中学年(3、4年)】外国語活動新設：週1～2コマ程度

- ・学級担任を中心に指導を行う。
- ・外国語活動の目標は、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験することでコミュニケーション能力の素地を養うこと。

【高学年（5、6年）】教科外国語（英語）新設：週3コマ程度（「モジュール授業」も活用）

- ・より高度な内容を扱う高学年の指導には、英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用を図る。
- ・教科英語の目標は、読むことや書くことも含めた初歩的な英語の運用能力を養うこと。

※今年実施された教員採用選考試験において、小学校高学年で実施される教科英語に備えて、小学校教諭等の採用枠に教科（英語）を設ける自治体が現れました。

宮崎県、熊本県、佐賀県、奈良県、京都市 など

※受験資格：小学校教諭普通免許状と中学校英語又は高等学校英語普通免許状所有者

《中学校の英語教育はこう変わる》

- ・中学校の授業も基本的にすべて英語で行う。更に、小学校における教科化と連動し、中学では4技能の総合的育成にとどまらず、より内容に踏み込んだ言語活動（聞き取り、多読、作文など）を重視する。
- ・英語担当教師は、授業を英語で行うことを基本とし、内容を踏み込んだ言語活動を重視する。
- ・英語の目標は、「身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う」としている。例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができることを目指す。

《高等学校の英語教育はこう変わる》

- ・英語担当教師は、授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化（発表、討論、交渉等）する。高等学校では、発表、討論、交渉など、更に高度な言語活動を積極的に実施する。
- ・英語の目標は、「英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」としている。例えば、ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題について課題研究したことを発表したりすることができることを目指す。

《中・高等学校の全英語科教員には、下記の英語力が求められる》

外部検定試験を活用し、教員の英語力の達成状況を定期的に検証し、必要な英語力として英検準1級、TOEFL iBT 80点程度等以上を目指す。

《生徒の英語力の到達目標は？》

小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力の向上を図り、生徒には、高校卒業段階で英検2級～準1級、TOEFL iBT 57点程度以上を目指す。

② 学習指導要領改訂スケジュール（英語教育）

平成26年度	文部科学大臣が中教審に諮問
平成27年度	中教審で議論 ↓ 新教材配布
平成28年度	学習指導要領改訂
平成29年度	教科書会社が教科書を作成
平成30年度	文科省が教科書検定 一部 先行実施
平成31年度	市町村教委が教科書採択 一部 先行実施
平成32年度	全面実施

今後、中央教育審議会の答申、学習指導要領の改訂、平成30年度の先行実施に向け検討が始められ、平成28年にも新学習指導要領が出る可能性があります。

教員採用選考試験の新たな動き

文部科学省は、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、新たな英語教育の実現のために、採用選考を改善促進し、高度な英語力と指導法を身につけた教員を採用するよう各自治体に通知しました。この通知を受け、今年実施された教員採用選考試験に新たな動きがありました。

《高度な英語力と指導法を身につけた教員の採用》

【京都府・京都市、広島県など】

英語を母国語とする外国人教員や留学などの海外経験を積み高度な英語力を持つ日本人英語教員の採用選考を促進するため、「グローバル人材を対象とした特別選考」を実施した。

《京都府・京都市の場合》

- ・一般選考の場合：第一次選考試験で、一般教養、専門教科、小論文、集団面接を受験
- ・特別選考の場合：第一次選考試験で、個人面施、論文を受験

※一般選考の英語受験者は、採用予定数から、特別選考合格者の数が減じられるため、厳しさが増してくることが考えられます。

《新たに英語受験者に出願資格設ける》

【兵庫県】教員採用選考試験実施要項に、下記要件を新たに設けた。

英語検定2級以上、TOEFL iBT 60点以上、TOEIC 550点以上、国連英検B級以上のいずれかの要件を満たす者

※今後、このように英語教員の採用選考に当たり、外部検定試験の一定以上のスコアの所持を条件とする自治体が増えると思います。

卒業生 真方明恵教諭 県英語教育研究大会で授業公開

10月28日（火）に実施される「宮崎県中学校英語教育研究大会」で本学卒の延岡市立西階中学校真方明恵教諭（H23年3月卒）が授業を公開されます。

本大会は、延岡市立延岡中学校を会場として、中学1年生の授業1コマ、2年生の授業2コマと「英語教育の今後の展開と授業づくり」と題した講演が計画されています。

遠方ではありますが、教員志望の学生にとって有意義な研究の場になると思っています。是非、参加下さい。

●日程（詳しくは、配布資料をご覧ください）



13:00		13:25		13:35		14:25		14:35		15:15		15:25		16:30	
受	開	授	公		休	授	研	休	講		休		閉		
付	会	業	開		息	業	究	息	演		息		会		
	行	準	授			研	授						行		
	事	備	業			究	業						事		

教育実習の感想等

●山本育実さん（実習校：中学校、担当学年：1年生）学校規模：全16学級

《感想》

実習当初は、自分がきちんと授業をできるのか、生徒達とうまくやっていけるか非常に不安だった。しかし、実習3日目にもなると、生徒の顔と名前を覚え、生徒も積極的に話してくれるようになり、とても嬉しかった。

授業では、毎時間の授業内容（ゲームや活動）を考えたり、準備に追われる日々が続いたり、とても疲れたが、その分、生徒がきちんと答えてくれるのでやりがいもあった。

また、授業以外の仕事も沢山の当たりにし、教員という仕事がどんなに大変かということも分かった。しかし、この実習は、私にとって本当に有意義なものとなり、改めて教員になりたいと強く思った。

《先輩へのアドバイス等》

まず、教科に対する専門性を高めるために、英語の勉強はきちんとしていた方がいいと思う。そうすれば、生徒の質問にも答えられます。また、明るくはきはきと、何事も自分から積極的に生徒と交流した方がいいと思う。3週間という限られた時間の中で、生徒とどれだけ信頼関係を築けるかも重要です。

